

新春を迎えて



ようてい農業協同組合
代表理事組合長

八田 米造



令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いで清々しい新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、JA事業につきまして、組合員や関係機関の皆様には格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は一昨年に続き、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化したことから、皆様におかれましても何かと我慢を強いられる1年ではなかつたかと存じます。

昨年の作況を振り返りますと、例年に比べ積雪量が多くつたものの融雪は順調に進んだことから、春から順調な播き付けで営農をスタート致しましたが、7月の記録的な高温・干ばつにより、作物の生育に大きな影響を与え、出来秋が心配されておりました。また、9月には大雨が発生する等、組合員の皆様におかれましては、大変ご苦労された年だったと思います。

このような気象経過により、水稻や麦では良好な品質・収量となりましたが、馬鈴薯は例年にはない程の小玉傾向となり、青果物においても経済活動の自粛により安価での推移が続き、販売環境が厳しい1年となりました。このような状況下にも関わらず、販売取扱高が計画を上回る結果となりましたことは、ひとえに組合員の皆様のご努力、そしてJAへのご協力・結束の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。

農業情勢に目を向けてみると、昨年6月に規制改革推進会議による規制改革実施計画が閣議決定され、農協改革に一定の結論が得られました。農協改革の着実な実践に向けて、組合員との対話を通じて、①自己改革の実施方針、②中長期の収支シミュレーション、③准組合員の意思反映及び事業利用方針を総会で決定する等により自己改革実践サイクルを構築することが求められています。従前よりJAグループ北海道として取り組んできた内容ではありますが、今後も自己改革に向けて継続的に取り組み、地域のライフルラインとして地域経済の発展に努めて参ります。

加えて、一昨年より新型コロナウイルスによる各農畜産物の需要減少等の影響が続いていることから、組合員の皆様が安定した営農を実践できるよう、JAグループが一丸となつて、需要喚起・消費拡大策等について国等へ要請を行つて参ります。

また、昨年は第30回JA北海道大会が開催され、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」をテーマに掲げ、JA運営の好循環に向けた対話の充実と、人・環境づくりに取り組む決議がなされました。当JAにおいてもこの決議事項に則し、ようつい管内の農業が将来に向かつて安心して営農が継続できるよう、組合員と役職員が一丸となつて取り組んで参りたい所存であります。

さて、令和4年は第5次農業振興計画・中期経営計画の最終年となり、令和5年からの第6次農業振興計画・中期経営計画の策定の年でもあります。昨年、組合員の皆様にご協力いただいたアンケートの結果を踏まえ、本年1年間で検討・協議し、来年の総代会に付議して参ります。本年につきましても、農業所得増大に向け、各部門と連携を図り、組合員の皆様の所得確保に努めて参ります。

最後になりますが、本年が皆様にとって明るい年であり、豊穣の出来秋を迎えることができよう、ご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

謹賀新年

代表理事組合長
八田 米造

大島秀章
〔常務理事〕

金子辰四郎

小西康久
〔常務理事〕

今井宏
〔常務理事〕

内尾勝稔
〔常務理事〕

今田祐治
〔常務理事〕

川原与文
〔常務理事〕

山田建一
〔常務理事〕

横井英樹
〔常務理事〕

湯浅涉
〔常務理事〕

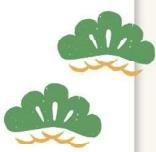
〔表中欠札〕

令和4年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
会長

小野寺俊幸



その対応を図つてまいります。

昨年は第30回のJA北海道大会を開催し、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」という将来ビジョンが決議されました。

コロナ禍やデジタル化への対応、SDGsへの貢献、信用・共済事業をはじめとしたJA経営を取り巻く事業環境への対応など、北海道農業、JAグループ北海道を取り巻く環境が急激に変化しており、このような環境に適応していくには、改めて、協同組合運動の原点である「対話」を通じて、実践方策を設定し、実践と改善をくり返すことで、変化の波をJA運営に取り込んでいくことが必要であり、組合員・役職員が一丸となつてしっかりと取り組んでいくことが重要となります。

結びになりますが、本年は壬寅年です。十干の「壬」は陽気を下に宿すという意味を持つており、生命の誕生を宿す意味を表しています。一方、十二支の「寅」にも壬と同様で、草花が伸びようとする状態を表しています。この謂われにあやかり、本年が豊穣の年となること、新型コロナウイルスの1日も早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の本道農業につきましては、春先は天候に恵まれ順調に推移したものの、7月～8月にかけての長期間の猛暑や少雨による干ばつ、また、9月に発生した雹や大雨により、一部の地域や作物によつては、生育が大変、心配されたものの、おおむね平年作物を確保することができました。

しかしながら、一昨年から引き続き、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年であります。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食の需要減少等の影響により、各作物の消費に大きな影響が出ています。

今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生の入国も影響があり、農作業の人材確保も大きな課題となつておりますので、北海道、全国連と連携し、JAグループ北海道としてしっかりと

武田吉正

田村俊一

芳賀修一

高田勝

坂爪洋介

原田万季子

行天英宏

三条志津子

「喪中欠礼」

天水さとい

高田勝

坂爪洋介

原田万季子

行天英宏

三条志津子

「喪中欠礼」

監事

糸谷公嗣

代表監事

糸谷公嗣

「喪中欠礼」

常勤監事

笠森丈夫

監事

糸谷公嗣

常勤監事

笠森丈夫

外職員一同

糸谷公嗣

常勤監事

笠森丈夫